

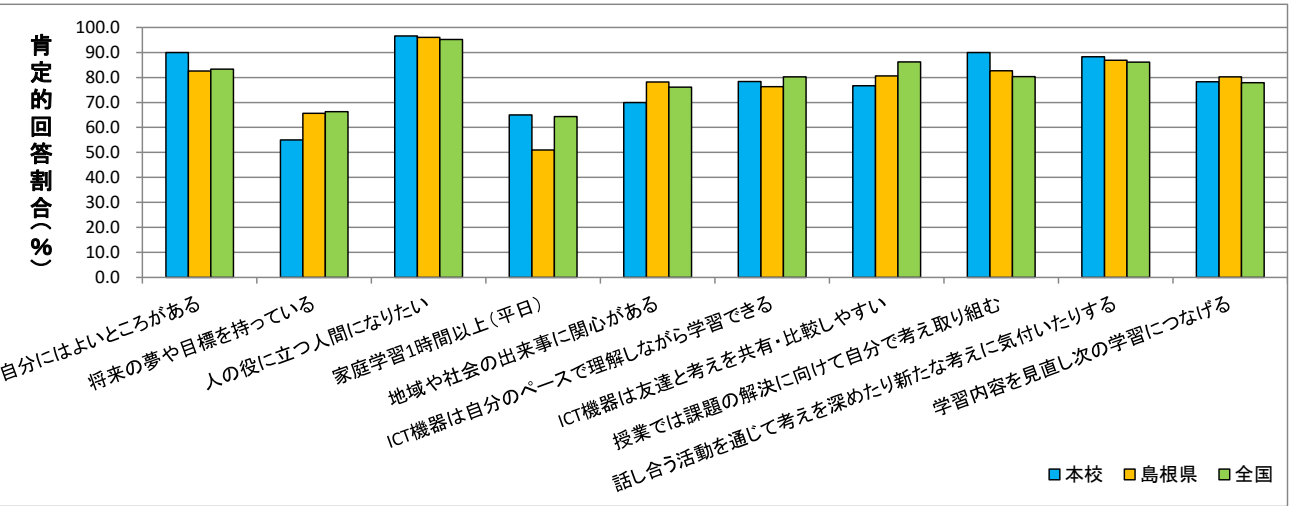
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
国語	○文脈に応じて適した漢字を書く問いや、行書の特徴として正しいものを選択する問の正答率が特に高く、漢字や書写に関する知識の定着がうかがえる。 ○無回答率が低く、学習に対する意欲の高さがうかがえる。 ●複数の文章や図から必要な情報を取り出して、結びつけて考えることに課題がある。	・文と文との関係や、文章と図の関連を考える学習活動を、複数の教材文で繰り返し行う。 ・授業や学校生活において、解答の根拠を資料から探し、明確にするよう意識づける。
数学	○正答率は県平均並み(やや全国より低い)であった。 ○特に、関数領域の正答率が高い。 ●図形領域に課題があるため、多角的に考察する力をつけることが必要である。 ●正答数の散らばりが大きいため、さまざまな理解の段階に対応できる授業になるように工夫する必要がある。	・文字を使って表したり、文字について解いたりすることを適宜取り上げ、既習事項を使いながら、学習を進めていけるような活動を取り入れる。 ・図形の問題に触れる機会を増やし、図形の特徴や性質などを見つけ、活用する場面を設ける。

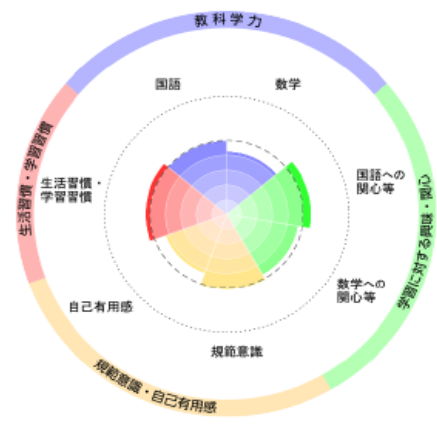
(2) 質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
質問紙	○友達や周りの人の考えを大切に、協力しながら課題の解決に取り組んでいる、と感じている生徒の割合が高い。 ○「自分にはよいところがある」と感じている生徒の割合が高い。 ●「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が低い。	・日々の教育活動において、生徒が感じている「自分のよいところ」と将来の夢や目標をつなげて考えられる機会を増やす。

(3) 質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・ICT機器が学習に役立つことを生徒が実感できるよう、授業や諸活動で積極的に活用する。
・ICT機器を活用する中で、メディアコントロールについても自分で考えられるよう、日々の声かけ等を繰り返し、意識づける。

【受検者数】
60 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。